

熊谷市卓球連盟

創立：昭和21年 団体数：12チーム
会員数：180人

はじめに

スポーツ活動は、記録に挑戦することはもちろん、健康な身体の発達を促すとともに、レクリエーションとして人間性を豊かにし、健康で文化的な生活を営むうえにも、活力ある社会づくりのためにも極めて大切です。

家族や仲間とのコミュニケーションに、健康管理に、体力づくりに、ストレス解消に、さまざまな目的で、スポーツ活動が実践されていますが、その中にあっていつでも、どこでも、誰でもできる生涯スポーツとして楽しめるのが卓球です。近年においてはTリーグ(プロ卓球選手によるリーグ戦)も開催されるようになり、自身でプレーするだけでなく観戦する楽しみも増えてきました。また日本のレベルも世界でトップレベルになりオリンピック、世界選手権でメダルを取るまでに向上してきました。来年開催される東京オリンピックが楽しみです。

活動内容

市民の皆様に卓球を広く愛好していただくこと、体育協会を円滑に運営していくことを目的として年間の事業計画を立て活動しています。主に卓球教室、卓球大会、卓球技術の向上を目的とした講習会の開催、その他熊谷市および体育協会の行事をサポートしています。

1. 卓球教室

卓球教室は熊谷市より委嘱を受け、前・後期の部(午前・夜間)、土曜の部(夜間)全60回開催しています。土曜の部は前・後期の部の参加者

の要望により、平成29年度から開催しています。各教室とも60名程度の参加者があり、活気のある卓球教室となっています。

教室名		開催時期	回数
前期	午前・夜間	5月～6月	各10回
	土曜	5月～3月	10回
後期	午前・夜間	9月～10月	各10回
	土曜	11月～3月	10回



当連盟の講師と生徒の模様です。

2. 卓球大会

卓球大会は、年間4回開催しています。

(1) 熊谷市総合体育大会兼文化祭大会
(11月)

今年度で75回を数える伝統のある大会です。1日目はジュニアの部(高校生以下)と初級の部でシングルのみの試合になります。2日目は一般の部でシングルス、ダブルスの試合になります。シングルス、ダブルス共に年代別に分かれて競い合うことになります。例年、1日目と2日目で合わせて約600名の参加者があり、関東学生リーグで活躍中の大学生も出場するほどの、レベルの高い大会となっています。

今年度は新型コロナウイルス感染リスクの影響で、熊谷市総合体育大会として連盟会員のみの参加にて開催しました。平成28年度から初心者向けとして初級の部を新設し、経験の浅い

卓球愛好家でも大会に参加しやすい取り組みを行っています。また、平成31年度にはジュニアの部を中学生以下の部と高校生以下の部に分けることで中学生がより参加しやすい大会としました。その効果もあり約320名の中学生が大会に参加し、盛況な大会となりました。



ジュニアの部。青春時代の1ページです。



一般の部。ピンポン玉をとらえる瞬間です。

（2）熊谷市長杯市民卓球大会（5月）

今年度はコロナウイルスの影響で開催されませんでしたでしたが、昨年度で51回になります。熊谷市在住・在勤者のみ出場できるダブルスの団体戦で、市民の皆様に親しまれている大会です。この大会は1部～3部に分かれています。1部は男女とも5チーム固定。2部、3部は出場チーム数により複数ブロックに分かれることがあります。1部の最下位チームが2部に降格し、2部の優勝チームが1部に昇格するという仕組みになっています。また、初出場のチームは3部からのスタートになります。

平成17年度から令和2年度までの男女各1部の優勝チームを掲載します。

大会結果（平成17年度～令和2年度）

年度	回	ランク別優勝チーム	
		男子1部	女子1部
平成17	37	熊谷クラブ A	はまなす
平成18	38	熊谷クラブ A	はまなす
平成19	39	さいしん和 A	T.くまがや A
平成20	40	さいしん和 A	T.くまがや A
平成21	41	さいしん和 A	T.くまがや A
平成22	42	さいしん和 A	T.くまがや A
平成23	43	東日本大震災の影響で中止	
平成24	44	さいしん和 A	T.くまがや A
平成25	45	さいしん和 A	はまなす
平成26	46	さいしん和 B	T.くまがや B
平成27	47	さいしん和 C	はまなす
平成28	48	なごみ A	はまなす
平成29	49	熊谷 J T C	熊谷 J T C
平成30	50	熊谷 J T C	熊谷 J T C
平成31	51	熊谷 J T C	あすなろ II
令和2	52	新型コロナウイルスの影響で中止	



男子1部リーグの熱戦の模様です。

（3）連盟夏季大会および新春大会（7月、1月）

夏季は個人戦、新春大会は団体戦ですが、各試合、基本ミックスダブルスです。当日にパートナーやチームメンバーが抽選で決まりますので、今まで組んだことのない方と組むことにより期待感や連盟会員間の親睦を深める大会になっています。今年度で92回を数える大会で連盟会

員の方には長年にわたり親しまれている大会になります。



日本で一番暑い夏に行われ、汗を流し頑張った入賞者の表彰の模様です。

(4) 熊谷オープン卓球大会 (2月)

この大会は平成30年度からスタートした大会です。埼玉県近郊より腕に自信のある方が多数参加する3ダブルスの団体戦です。1番男子ダブルス、2番女子ダブルス、3番ミックスダブルスになります。試合はチーム4名の合計年齢別で競い合います。合計年齢が280歳以上の部が最高齢の部になります、70歳を超える選手も多数参加しています。しかし、試合での動きはまだまだ軽やかでとても70歳を超える年齢には見えません。卓球が生涯スポーツであることを改めて感じる大会になっています。まだ歴史の浅い大会ですが、当連盟の会員だけでなく一般の方も対象として独自に企画した大会ですので、これからよりよい大会になるよう発展させていきたいと考えています。



寒さが厳しい大会ですが、若さゆえ半袖、ショートパンツで気合の一撃。

3. 卓球講習会

令和2年度は新型コロナウイルス感染リスクの影響で中止になりましたが、平成28年度から例年8月に開催しています。日本卓球(株)および国際卓球(株)所沢店の協力を得て、日本のトップ選手を熊谷に招待して開催しました。招待選手は以下の通りです。

- ・第1回 森園選手、上村選手
- ・第2回 時吉選手、石垣選手
- ・第3回 時吉選手、坂廻辺選手

講習会の内容は、招待選手による模範試合や参加者への技術指導、招待選手と参加者全員との交流試合です。参加者においては記憶に残る講習会であったと思います。特に、中学生や高校生のような若い方にとって、日本のトップ選手からの直接指導や交流試合は、今後も卓球を続けていくうえで貴重な体験になったと思います。この行事は熊谷の夏のイベントとして今後も継続していく予定です。



時吉選手と石垣選手の模範演技風景。

4. その他の活動

熊谷市が主催する勤労者スポーツ大会(卓球)の試合進行や審判員派遣、体育協会の活動としてさくらマラソン、東日本駅伝等への役員派遣、埼玉県卓球協会への役員派遣を行っています。

トピックス

平成27年度に当連盟の広報活動を目的とし

てホームページを作成しました。年間スケジュールや大会情報および結果等を掲載しています。また、問合せ窓口も開設し、広く皆様からのご意見を承っています。当連盟から皆様への連絡の手段や卓球活動の支援のためのものですので、引き続きホームページをご活用ください。

また、平成28年度から当連盟として県の春季および秋季リーグ戦やクラブチーム戦等の大会に参加しています。こうした背景もあり当連盟としてオリジナルユニホームを作成しました。

表彰（平成17年度以降）

- ・シラコバト賞
平成23年度 吉田 稔（故人）
- ・コミュニティ活動実行賞
平成22年度 仲内 才市
平成29年度 石井 宏一
- ・体育功労賞
平成20年度 新井 暁美
平成21年度 加賀谷 久子
平成23年度 伊佐山 善子
平成26年度 伊佐山 幸志
- ・優秀選手賞
平成20・22年度 村木 まさ子
- ・体育振興賞
平成20年度 木内 美鈴、高橋 悦子、
齋藤 和代子
平成21年度 児玉 精一（故人）
平成22年度 内田 早苗
平成25年度 森尻 定男、馬場 誠一、
栗原 千晴、松崎 雅之、
橋本 忠男、塚越 宏

役員

- ・平成27年度以前
吉田 稔 会長（故人）、仲内 才市 副会長兼
理事長、林 カツ子 副理事長、石井 宏一副

- 理事長、他複数の理事、幹事、監事。
- ・平成28年度以降
吉田 稔 会長（故人）、仲内 才市 副会長、
林 カツ子 副会長、石井 宏一副会長、石川
政晴 副会長、新井 暁美 副会長、橋本 忠男
理事長、松崎 雅之 副理事長、塚越 宏副理
事長、他複数の理事、幹事、監事。
※平成28年度に役員の定年制を導入。
※平成30年11月に吉田 稔 会長逝去。
石井 宏一 副会長が会長に就任。

- ・令和2年度
石川 政晴 会長、橋本 忠男 副会長兼理事
長、石井 宏一 参与、林 カツ子 参与、新井
暁美 参与、松崎 雅之 副理事長、塚越宏 副
理事長、他複数の理事、幹事、監事。



当連盟の現在の役員、オリジナルユニホーム

今後の課題と展望

スポーツ界全体としてプロ化が進んでいます。卓球も平成30年よりTリーグが開幕し、卓球の試合がテレビ放送されるようになり、以前より卓球の技術を含め身近な存在になりました。こうした背景の中、子供達や各年代の方へ卓球技術を正しく指導できる人材、場所等の環境を整えることが、喫緊の課題です。この課題をクリアすることが当連盟の活性化につながり、卓球選手として将来Tリーグ等で活躍することを目指し、目標に掲げて加入してくる子供達をサポートしていけると考えています。